親子でどっぷりつかろう　絵本の世界

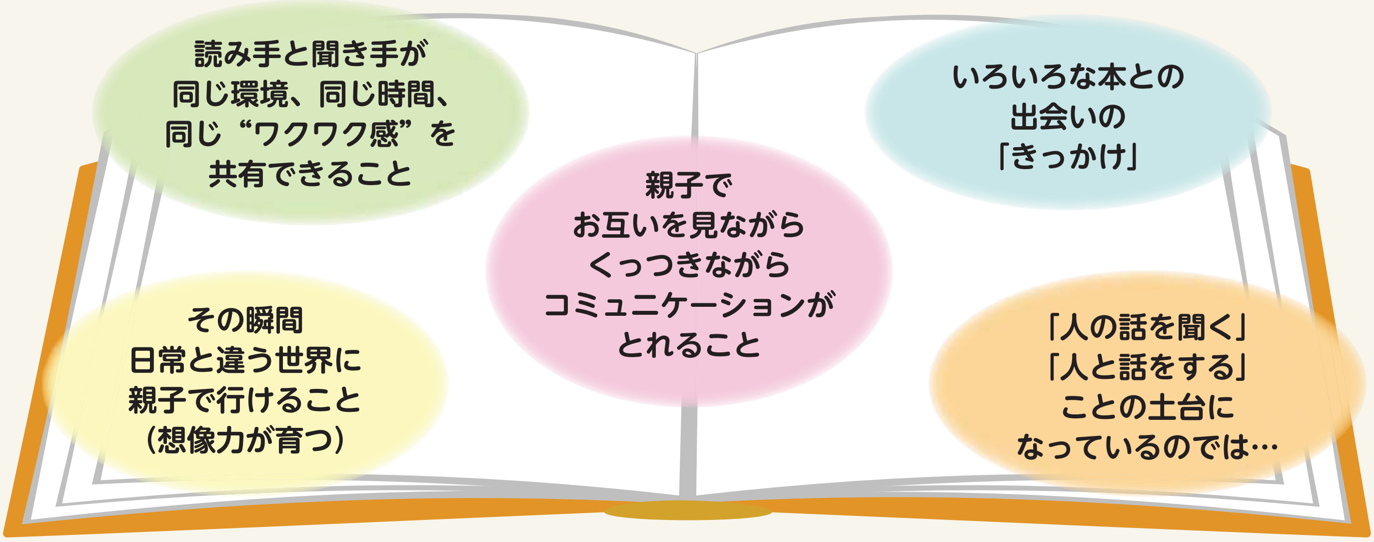
「毎日の生活の中で、子どもとのコミュニケーション方法は？」と聞かれたら、その中の１つに、「絵本の読み聞かせ」とイメージする方が多いのではないかなと思います。読み聞かせは大切だと思いつつも、「何を、どう読んであげればいいの？」など、悩みを聞くことも多いものです。また、「絵本は小さい子のもの」と思っている方が多いと思いますが、実は、そうとは言い切れないものです。（詳しくは、Ｐ４をご覧ください。）

そこで、今号では、地域で家庭教育のボランティアを行う「家庭教育支援活動者」の皆さんと、「子育てと絵本」について、意見交換をしながら、一緒に考えてみました。

読者の皆様にお伝えする内容は、「専門的な話」ではなく、「活動者自身が子育ての中で経験したことや感じたこと」、「支援活動の現場から見えたこと」などが中心となっていますので、共感できる話題が多いと思います。ぜひ最後まで読んでいただきたいと思います。

まずは、この質問からスタート！

「読み聞かせ」のいいところって何だと思いますか？



など

「読み聞かせ」のタイミングって、どんなときがいいの？

時間に余裕があるならば
「いつでも！」
「どんなときでも！」

子どもが
「読んで！」と
言ってきたとき

何かの切り替えのとき

例）寝る前
おやつの後
遊びと遊びの間
気持ちを落ち着かせる
（落ち着いてもらいたい）とき

など

◎支援者から「ひとこと」◎

私は、**読む人も、子どもも、ゆったりしたとき**がいいかなと思います。
親がイライラしている時などに読むと、読み聞かせに失敗することが多かったからです。

「読み聞かせ」のコツって、何かあるの？

【変化をつけるなら】
- ○ 出てくる人や動物などによって、声やテンポを変える
- ○ 場面が変わるとき、ちょっとした、“間”を入れる

など

⇔

【そのままも “ステキ”】
- ○ あえて、何も変えずに普通の声で、自然体でＯＫ
- ○ 絵をじっくりとみせて、味わいながらも、オススメ！

など

時には、絵の感想を言い合うこともいいですね
（例）「おいしそうな料理だね」
「このあと○○は、どうなるのかな」　など

だけど、一番大切で、忘れてはいけないことって…

「読んであげる（という姿勢）」ではなく、「一緒に楽しむ」こと

◎支援者から「ひとこと」◎

「何のために」、「読み方のコツ」など、あまり、細かいことにこだわらなくてもいいと思います。読み聞かせは、子どもの成長の１コマぐらいに、ゆとりをもった方がよいのでは。

「大切なことが間違っていなければ大丈夫」

８０才を過ぎてもそう思います。

あえて聞いてみた‼

「読み聞かせ」での失敗談

◎人生には「失敗から学ぶ（学べる）」ことがありますので、皆様のご参考になれば幸いです。

- ○ 物音の擬音（ドンドン、ガタン）、ちょっとした歌（「ルンルン♪」）などを、読まずに先に進んだら、「ここも読んで！」、「なんで読んでくれないの？」とすべて指摘してきて、なかなか進まなかった。
- ○ 子どもが「外で遊びたい」と言ってきたが、無理に読み聞かせをしたら、やっぱり失敗した。
- ○ 子どものためと思い、力が入り過ぎて、余計な感情を入れ過ぎて読んでしまった。物語の流れと合わなくなってしまった。
- ○ 大丈夫かなと思いつつ、年齢より難しい内容を選んでしまい、子どもがあきてしまった。
- ○ 何冊か用意していたが、読む本の順番を間違え、後半の本を落ち着いて聞いてもらえなかった。
- ○ 急いでいたので、早口で読んだら、その後が大変だった。
  大変だったこと ⇒不満やグチを言われ、お互いにイライラ

こんな時の対処法として、例えば、「急いでいるから、短い本１冊ね」とか「落ち着いたら、読んであげるから待っててね」というのはどうでしょうか。分かってくれたら、お子様に「ありがとう」の言葉を、忘れずに伝えてください。【「親学」担当者より】

教えて支援者さん!!

「読み聞かせ」に関するQ&A

ここでの質問は、実際に「親学出前講座」において、「読み聞かせ」に関して聞かれた質問を題材にし、家庭教育支援活動者の方々の意見をまとめたものです。たくさんのご意見をいただいたのですが、その一部をご紹介します。皆さんも一緒に考えてみましょう。

Q どんな本を読んだらいいのか、いつも迷います。オススメとかありますか。

A
- ○ 長年読まれている、愛されている、いわゆる「定番絵本」は、やっぱりおすすめ。
- ○ 季節に合わせた本。
- ○ 書店や図書館に行って、本棚をみて、ピンときた本。
- ○ 子どもと図書館の絵本コーナーに行って、何に興味があるのか探る。
- ○ 図書館の「おすすめコーナー」などを参考にする。
- ○ 図書館で、子どもが読みたいと言った本を何冊も借りて読んでみる。図書館は無料だし、子どもとちょっとしたお出かけ場所としても活用しています。

Q 「同じ絵本を何度も読んで」とお願いされるのですが…。

A
- ○ 何度でも読んであげる。
  〔読み手が大変であることは共感できます。〕
- ○ 子どもにとって“楽しいこと”なので、仕方がないと（気持ちを切り替えて）読んであげる。
- ○ 確かに、10回続けて読んだとしたら、ちょっとつらいですよね。例えば、「続けて読むのは、２回まで」とか提案してみたら。(上手くいくかわかりませんが...)
- ○「この絵本、パパ（ママ）は好きなんだよね。一緒に読んでみようよ。」と言って、違う本を勧めてみては。

Q 読み聞かせを続けるコツはありますか。意外と体力勝負な気が…

A
- ○ 読み手も楽しんでください。
- ○ 読めるときに読むぐらいで、無理をしなくていいと思います。
- ○ 確かに、しっかり読むと疲れます。ただ、本を読んで、「本好きの子になってね」との思いで、子どもが小さい頃は、がんばっちゃいました。
- ○ 疲れているときは、「今日はお休み」もありかな。反対に、読めるときは、いっぱい読んであげる。すると、子どもが「じぁ、次は（明日は）読んでね」と優しい声をかけてくれました。

Q 寝る前に読み聞かせをしていますが、読み聞かせをしても寝てくれません。どうしたら…。

A
- ○ 「寝るための読み聞かせ」ではないので、くれぐれも怒らないで。
- ○ 「早く寝てほしい」の気持ちはなしで。意外と伝わりますよ。
- ○ 「この本読んだらおやすみね」と最初に伝え、終わったら「はい、おしまい」と優しく声をかけ、部屋を暗くする。
- ○ もし、寝かせたいのであれば、その子にあった方法があるはずです。本を使わない「お話」でもいいし、体を優しく「ポンポン」しながらの添い寝でもいいし、そのまま一緒に寝るでもいいと思います。

Q うちの子、もう「読み聞かせ」をする年ではないんですけど。
ただ、本には興味をもってもらいたいです。

A

○ お子さんの年齢は何歳ぐらいでしょうか。小学生ぐらいなら、大丈夫だと思いますけど。だって、「読み聞かせ」は何歳でも好きだと思っています。ただし、親子だとお互いに恥ずかしさが出てしまうのかも。私もそうでしたし。以前、小学校で読み聞かせをした経験がありますが、どの子もよく聞いてくれたし、子育て講座での読み聞かせでは、子どもと一緒に親も聞き入っている姿がみられたので。

○ 親子で、“同じ本”を読書してみるのは、いかがですか。

○ リビングなど、子どもの居場所に本（絵本）を置いておく。それで、「待ってみる」でもいいと思います。子どもが本に触れたとき、声をかけ、本の世界に引き入れてみるというのはどうでしょうか。

○ 親が本を読んでいる姿をみせることも大切です。読んだ本の感想を伝えてあげる。そして、気長に待つ。もし、同じ本を読んだのであれば、その感想を伝えあうのも素敵ですね。子どもの感想を否定せず、共感して聞くことがおすすめです。

こどもるっくる版 親学出前講座

大人も子どもも、みんなで『絵本を読もう』

「絵本は子どもが読むもの」、「絵本を読む大人って・・・」なんて思っていませんか。実は、大人の方にもぜひ絵本を読んでいただきたいのです。このコラムを書いている「親学」担当者の私も、最初は「仕事の一環」と思って読んでいました。個人的な感想ですが、**絵本は、視覚的にわかりやすく、文章も短く（本によって異なりますが）、すべての年代に適した本もあり、心に残る、感動する内容のものが多いことに気づきました。**読めば読むほど、絵本のすばらしさに引き込まれると思います。もちろん、私も子育て中の親でもあるので、そこで出会った本を子ども（当時：幼稚園）に紹介したところ、最初は「えー」と言っていましたが、読んだら大喜びで、何度もお願いされ、読んだ思い出があります。ちなみに、小学生になった今でもその本が大好きです。

ところで、「絵本（本）」は「親学」と、どんな関係があるのでしょうか。それは、やっぱり「良好な親子のコミュニケーション」に、ぴったりということです。家庭教育支援活動者の方々もおっしゃっていましたが、親子で絵本を読んでいる、あの“空間”が何にも代えがたいものであり、子どもが自分の居場所を実感する瞬間ではないでしょうか。